



## 在外教育施設派遣教員帰国報告書

～ベトナムでの3年間の生活から～

### ベトナム ハノイ日本人学校での実践

赴任先 在ベトナム日本国大使館附属ハノイ日本人学校

現任校 札幌市立資生館小学校 教諭 小野 純一

#### ～ プロローグ ～

札幌市を離れ、7名の各都道府県派遣教員と共に赴任したベトナムの首都ハノイ。赴任中は小学部部长、中学部理科専科、教務主任を経験。小学部と中学部が一体となり「子どもありき」の学校経営を意識しながら、志の高い同僚と実践を積み重ね、充実感に満ち溢れていたハノイでの三年間。ここに、経験をさせていただいたことに感謝の意を込めて3年間の実践について報告させていただきます。

#### I ベトナムハノイの概要

##### (1) はじめに

平成25年度私がハノイ在住最後の年度となった年は、ベトナムと日本は日越外交関係樹立40周年を迎えた年であった。日本からのODAや各企業の投資、会社の設立が盛んであり、日本とベトナムの結びつきは近年一層強くなってきている。

航空路線は成田に加えて、関西・名古屋・福岡からの直行便が増便される等、日本とハノイの距離は縮まってきた。今年度になり、羽田からの直行便も就航された。片道およそ5時間程度行くことができる。またベトナムは今、アジアの国々の中で注目されている国であり、2010年にはタンロン・ハノイ建都千年の記念行事も行われるなど、ハノイを訪れる観光客も少なからず年々増えてきている現状である。



ここハノイは平成20年に隣接省の吸収合併などで面積が3.6倍に拡大し、人口約656万人、ベトナムの首都であり政治・文化の中心地。ハノイの人口の増加は著しく、ここ十年間で2倍以上である。街中のバイクの多さやクラクションの音には圧倒させられるが、活気に満ちた街である。街路樹の深い緑、点在する湖は心を和ませてくれる。そして、古い寺や廟、フランス風の洋館はベトナムの歴史を実感させてくれる。ハノイとはそんな街である。

「ベトナム」や「ハノイ」「ホーチミン」という言葉から、どのようなことをイメージするだろうか。ベトナム戦争・仏領インドシナ・ボートピープルなど暗いイメージを連想する方もいることと思う。しかし、ドイモイ（刷新）政策の採用やASEANへの加盟等により、急激な変容を遂げようとしているベトナムは活力に溢れ、「豊かさ」を目指して動き出し、現在においては、東南アジアでは最も多くの企業から注目されている国なのである。

(2) ジェネラルインフォメーション

正式国名 ベトナム社会主義共和国

Socialist Republic of Viet Nam

面積 32万9241平方キロメートル

日本の約90%で九州を除いた日本の面積とほぼ同じである

人口 約9170万人(2013年)

日本人在住者は約12000人

在日ベトナム人は約72000人(ここ5年間で2倍近くになっていると言われている)

首都 ハノイ Hanoi (ハノイの人口は約656万人…2013年現在)

国歌 Tien Quan Ca (ハノイ日本人学校では儀式で斉唱することを定例としていた)

位置 インドシナ半島東に位置し、南北に細長いS字形の国である。北は中華人民共和国、西北にラオス、西南にカンボジアと国境を接している。日本から直線距離で3600km。時差は2時間である。上記の地図は面積の違いが一目でわかるように横に並べたもの。



国家主席 グエン・ミン・チェット Nguyen Minh Triet

首相 グエン・タン・ズン Nguyen Tan Dung

共産党書記長 ノン・ドゥック・マイン Nong Duc Manh

国旗 ベトナム国旗は金星紅旗(コー・ドー・サオ・ヴァン)



Co Do Sao Vang と呼ばれ、旧ベトナム民主共和国(北ベトナム)の国旗として1945年に制定した旗を、南北統一(1976年)後も使用している。

民族構成 ベト(キン)族約90%、タイ族、ムオン族、クメール族、ヌン族、モン族、ザライ族など、54族の民族が住んでいる。ベト族以外は少数民族である。

政治機構 政治体制…社会主義共和制 政党…ベトナム共産党 立法…国会(一院制)

司法…最高人民裁判所、地方人民裁判所、軍事・特別裁判所

宗教 仏教約80%、キリスト教約9%、イスラム教、カオダイ教、ホアハオ教、ヒンドゥー等

言語 公用語はベトナム語。文字はクオック・グー(Quoc Ngu)を使用している。外国人や旅行者を相手にするところでは英語がよく通じる。店によっては日本語が通じることもある。他に年配者には、フランス語やロシア語が通じることもある。

通貨 通貨単位はドン(Dong=VND)。使用されているのは最も小さいので1000VND、最も大きいので50000VND 赴任時500VNDも使用されていたが、今はほとんど使用されていない。おつりに端数がある場合は飴などで代用される。

1USD=約20000VND 1VND=0.0049円 10000VND=49円(2014年1月現在)  
現地で生活していたときは、0を2つ取って2で割って日本円に換算していた。

祝祭日 1月1日 元日(ただしベトナムは旧正月のため1月1日は単なる祝日)

旧暦の大晦日と1月1日~4日(2014年は1月30日が大晦日、1月31日が元旦)

毎年異なり、大概1~2月の間がテト休みとなる。テト期間は帰省をすることが慣例。

4月9日 フンヴオンの命日(旧暦に合わせるので毎年変わる)

4月30日 南部独立記念日 5月1日 メーデー

9月2日 国慶節(独立記念日) 基本的に学校は9月に始まり5月末で終わる。ベトナムの祝祭日は少ない。テト休みには一週間近くの休みをとることが多い。

### (3) ベトナムの気候

ベトナム南部は熱帯モンスーン地帯で、乾季と雨季があり、年間を通して暑い。ベトナム北部は亜熱帯の気候であり、雨の多い時期と少ない時期がある。夏と冬の気温差が大きく、夏は高温多湿で蒸し暑い。雷が鳴ることが多く、雨の多い時期は冠水によって臨時の下校を行ったこともある。



ベトナム北部に位置するハノイは四季があると言われているが、ハノイは不快指数が100近くになることが多い。すっきりと晴れる日はまれである。年間を通してみると以下ようになる。

- ◎ 4月（春）……………晴れたり曇ったり。晴れると暑い。また天候が不安定で、暑かったり寒かったりする。長袖と半袖が必要。
- ◎ 5月～10月（夏）…一気に気温が上がり、蒸し暑い。太陽が出ると強烈な日差し。朝から35℃以上になることもあり高湿度。
- ◎ 10月後半～（秋）…すがすがしく、ハノイで一番過ごしやすい季節。気温はまだまだ高い。この時期に運動会を行っている。5～6月は極度に暑い。
- ◎ 12月～3月（冬）…肌寒く、小雨が降ったりして曇りの日が多く、日本の初冬という感じ。セーター、ジャンパーなどが必要。私は年間半袖で過ごす。

### (4) ベトナムの世界遺産

2014年9月現在、ベトナムでは7カ所が世界遺産に登録されている。1993年に文化遺産のフエ王宮群が、1994年に自然遺産のハロン湾が、1999年にホイアンの町並みおよびミーソン遺跡群が、2003年にフォンニャ洞窟が、2010年にタンロン遺跡およびハノイ城が、そして2011年にホー王朝の城砦が登録された。世界遺産という付加価値によって、ベトナムの国民が文化遺産に強い興味を示すようになったことはとても喜ばしいことである。



### (5) ベトナムの教育制度

ベトナムの教育制度は、1950年、56年、79年の3度にわたる教育改革を経て、初等教育5年間、中等教育4年間、高等教育3年間の5・4・3制ができあがった。この期間を普通教育と呼んでおり、義務教育は初等教育の5年間とされている。小学校はほぼ100%の就学率を達成し、中学校の就学率は92%と順調な進展が見られている。

小学校では年間35週の授業が行われる。日本の年間授業数より少ないが、1週間の授業時数は日本の小学校より多い。特徴的なのは、カリキュラム上、ベトナム語が重視されている点である。小学校低学年では授業時数の半分、高学年では約3割がベトナム語の授業に当てられている。こうしたカリキュラムは、ベトナム人の識字率を高めることに貢献していると考えられる。2000年の統計(ユニセフの2005年世界子供白書)によると、ベトナム人の成人の総識字率は93%である。ベトナム近隣国であるタイの96%、マレーシア87%、フィリピン95%とほぼ並ぶ水準にある。国家社会経済開発計画によると、さらなる就学率の向上と教育水準の向上をめざしていることが分かり、今

後も教育改革に力を入れていこうとする国の姿勢がうかがえる。

ドイモイ政策（ジュライの政策を含め、国営、公営以外のものも認められた。これにより、公立以外の学校が誕生した。）開始以降、カリキュラムの本格的な改訂が行われ、小学1年生から順次行われた改訂は、2009年度に高校3年生まで出揃ったとされる。従来の詰め込み教育ではなく、考える力を養い、実践を重視する内容となることをめざした。しかし、カリキュラムは国が定め、教科書も国定教科書の1種類のみである。教育方法は児童中心主義（児童の主体性を尊重する授業をめざす）が唱えられているが、教師が一方向的に教科書の内容を伝達する従来の授業からの脱却は容易ではないようである。私立中学校の理科、私立小学校の理科・体育科・美術科、公立小学校の理科・美術科の授業を参観したが、いずれも教師が指名した児童生徒がテンポよく教師の問いに答え、教師は時間内に予定通りの内容を伝えることを目標にリズムよく授業をこなしている。



ベトナムの2005年教育法第2条によると、「教育の目的は、全面的に発達し、道徳、知識、健康、審美眼、職業を持ち、民族独立と社会主義の理想に忠実なベトナム人を育成することである。」とされる。社会主義国家に奉仕する人間を育成するという前提は、ドイモイ政策以前も以降も一貫して変わっていないのが現状である。

ベトナムの2005年教育法第2条によると、「教育の目的は、全面的に発達し、道徳、知識、健康、審美眼、職業を持ち、民族独立と社会主義の理想に忠実なベトナム人を育成することである。」とされる。社会主義国家に奉仕する人間を育成するという前提は、ドイモイ政策以前も以降も一貫して変わっていないのが現状である。

## (6) ベトナムでの暮らし

### ～ベトナムの交通事情～

ベトナムといえばバイクである。ハノイの道路は多数のバイク、自転車、自動車が入り乱れ、道路を埋め尽くしている。信号機はあるが守られているようで守られていないところもあり、混雑時になると逆走があったり、歩道にもバイクを乗り込んだりするなど、とにかく危険がたくさん潜んでいる。1日に40件ほどの事故が起きていると言われている。ベトナムは国際運転免許の条約には加盟しておらず、国際運転免許は適用されていない。バイクを運転するにはベトナムの免許証が必要である。



バイクのメーカーはホンダのものがほとんどであり、工場も現地に置かれている。最近では車も増えてきており、バイクも質のよいものが増えてきている。クラクションを鳴らす感覚は日本と異なり、自分が進みたいということをアピールするために鳴らす感覚なので、四六時中クラクションが鳴り響いている。バスは、3000ドンから5000ドンに値上がりした。降車時に止まらないことがあるのでかなり危険を感じることもあった。タクシーは初乗りで8000～14000ドン程度であり、日本に比べるとかなり格安である。ぼったくりがあるので、タクシー会社を見分ける必要がある。

### ～ベトナムの食と生活～

ハノイの朝はとても早い。市場はもちろんのこと、お店も6時くらいから開けているところが多い。ベトナム人のほとんどの人が朝食は外食をするそうだ。日本ではあまり考えられないが、フォーの店などを中心に大衆食堂が多く点在している。日本人居住者が年々増えていることから日本食を食べられる店が市内に40店ほどある。（お寿司屋さんが多い）ベトナムは基本的にお米文化（米の輸出量は在勤期間中に世界1位となった）なので、日本人にはあっている。フォーの他にお粥、ブンチャー

(焼き肉の入ったつけ麺) といった麺料理を好んで食べている。ネムザーンと呼ばれる揚げ春巻きやベトナム風お好み焼きとも呼ばれているバイン・セオなどが有名で脂っこくもなく、激辛味の少ないマイルドな味であることが特徴である。建物は間口が狭く、奥に長い構造のものがほとんどで、どんなに狭いところでもバイクが入り込んでいく。女性がよく働く気質があり、男性は女性に支えられながら生活しているという風潮が強い。治安はよく、多くのベトナム人が日本人に対して好意をもって接してくれる。



## II ハノイ日本人学校の概要

### (1) 学校経営方針

#### 基本計画

日本人学校の使命は、我が国の主権の及ばない外国で、日本国内とまったく異なった教育環境におかれた日本人の児童生徒に対し、日本国民にふさわしい教育を行うとともに、国際性を培うことを目的としている。つまり、学習指導要領に則して初等中等教育を行うことはもちろん、海外であるという特性や地域素材を生かした豊かな教育活動を展開することが期待されている。

本校は、ハノイ在住の邦人の期待に応えながら着々とその成果を上げ、開校18年目を迎える。小学部は新学習指導要領の全面実施2年目、中学部は新学習指導要領全面実施の初年度となる。「生きる力」を育成するために、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等のバランスを重視しつつ、道徳教育や体育などの充実を図るとともに、国際社会に生きる日本人としての自覚の育成に重点を置き、創意工夫を生かした特色ある教育を推進する。

#### ハノイ日本人学校の校訓

やさしく かしく たくましく

#### 学校教育目標

自ら進んで学習するかしこい子

思いやりのあるやさしい子

忍耐強く最後までやり抜く健康でたくましい子

世界の人々と共生できる国際感覚豊かな子

#### 具体的目標

目標をもって自ら進んで学習するとともに、自分で考え、自分で判断し行動する。

互いを思いやり、認め合いながら協力して生活する。

健康安全に留意し、進んで身体を鍛え、忍耐強く最後までやりぬく。

コミュニケーション能力を高め、ベトナムを理解することで自国文化と異文化の理解を深める。



教務主任を担当している時に半永久的に使用できるよう彫刻で校章と校訓を制作して職員室前方の壁に掲示した。

### (2) ハノイ日本人学校の沿革

ハノイ日本人学校は平成8年4月、海外における92番目の日本人学校としてベトナムの首都ハノイの交通運輸大学内の敷地に開校した。開校時は13名の児童・生徒でスタートし、19周年を迎え

た現在では全校児童・生徒350人を超える数に至っている。(平成26年3月現在)近年2～3年の間に全校児童・生徒数は100人以上増えている。

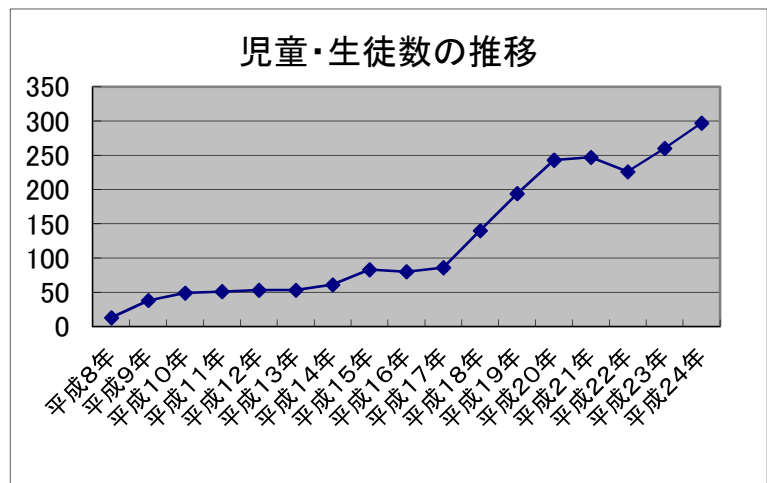
平成18年8月末、念願であった新校舎がハノイ市郊外のMy Dinh(ミーディン)地区に完成し、10年近く親しんできた交通運輸大学内の校舎を離れ、同年の二学期から移転した。このMy Dinh(ミーディン)地区は、国会議事堂や国立競技場、水泳施設などが建つ副都心として発展している地域である。

近年の児童・生徒数の増加に伴い、今年度(平成26年度)より、プールのあった施設に4階建ての校舎増築を始め、平成27年度完成をめざして現在建築中である。開校から現在に至る児童・生徒数の推移は次の通りである。

### (3) ハノイ日本人学校の

#### 児童・生徒数の推移

年々増加傾向にある。開校から10年間は100人に満たない中での増加傾向であったが、新校舎建設を境に急激に増加した。平成21年度は減少傾向にあったが、在任中の3年間は再び増加する傾向に戻った。今後も増え続けると予想され校舎増築に取りかかっているところである。



### (4) ハノイ日本人学校のスタッフと教育活動

在勤最終年度の平成25年度は教職員27名で学校の運営を行っていた。小学部は1～3年生までが3クラス、4～6年生が2クラス、中学部は各学年1クラスの構成であった。教職員の他に英語講師4名、英語コーディネーター1名、ベトナム語指導講師1名、事務補5名、用務員2名のスタッフで運営に当たった。(ベトナム語指導講師、事務補、用務員はベトナム人スタッフ)小学校においても一部教科担任制を導入しており、小学部と中学部を兼ねて受け持つ教員もいた。日本で行う学習指導要領に準じた教育活動を行うことはもちろんであるが、ハノイ日本人学校の教育活動の特色として次のものがあげられる。

- 小学部英語 全学年週2時間 中学部英会話 全学年週1時間
- 英語検定の実施(年3回) 基本的に土曜日・日曜日の実施
- 小学部社会科・総合的な学習の時間で使用する副読本(シンチャオハノイ)の作成と活用
- 総合的な学習の時間などによるコミュニケーション能力の育成
- ハノイタイム(朝自習の時間)での各種検定への取組  
小学部4年生から中学部3年生が対象 漢字検定と数学検定に向けた取組  
小学部1年生から小学部3年生までは、基礎的基本的な学習の習得の時間
- ベトナム現地校との交流会(年に2回実施) 5校の現地校との交流 訪問と招待で2回実施
- シンチャオパーティー・テトカーニバルなど、ベトナム人スタッフとの交流をもちながらのベトナム文化の特色を活かした行事の実施
- 日本国大使館や日本の企業における職員の研修(現地理解研修)

## (5) ハノイ日本人学校における様々な教育実践

### 水泳学習および体力を向上させる取組

ハノイの気候を生かし、毎年5月から水泳学習をスタートさせる。ハノイは帰宅後外で遊ぶ環境が整っていないこともあり、子どもたちの運動量の不足が大きな課題となっている。水泳学習は夏休み明けの9月まで行っている。水泳や縄跳び、持久走など、子どもたちの体力を向上させるためのカリキュラム作りを通して実践をしてきた。7月には水泳参観も行っている。泳げない子がいても、水泳学習が終わる頃には全員泳げるようになっている姿から水泳学習の大切さを実感できる。水泳や縄跳びは帰宅後も練習できる機会が十分にある。家庭での学習にも取り入れるなど、極力運動に親しむ機会を生み出すようにしてきた。(サービスアパートメントにはほとんどプールが常設されている)



### 行き来を基本とした現地校との様々な交流

ベトナムを理解する活動として現地校との交流を全学年において行っている。赴任時は不定期で相手の学校も固定されていなかったが、時期と相手の学校を固定化し今後も継続して取り組んでいけるようにした。週1回のベトナム語の学習で身に付けた知識と技能を生かしてコミュニケーションをとりながら、お互いの文化についての交流(学習や遊び)を中心に活動を行ってきた。イベント的な交流ではなく国際感覚を磨くという視点から、自国の文化をより深く知った上で相手の文化を尊重しながら受け入れるということに主眼を置いた。年1回から年2回へと回数を増やし、毎年内容を深化させながら取組を継続してきた。



### ハノイ日本人学校の行事

ハノイ日本人学校では様々な行事が行われている。おもな行事は以下の通りである。

- 1学期…入学式、新入生を迎える会、開校記念日集会、水泳参観、シンチャオパーティー、小学部長縄大会、漢字・数学検定修学旅行(小学部6年ホーチミン、中学部2年フエ、ホイアン方面)
- 2学期…スクールフェスティバル、運動会、ハノイ日本人祭り(商工会主催でグラウンド開催)ティーチャーズデイ(ベトナムでは年に1度、先生に感謝を表す日がある)小学部遠足(歩いては行けないので、バスを使用して行っている)
- 3学期…もちつき大会、テトカーニバル、卒業生を送る会、卒業式  
スクールフェスティバルは学芸発表会のことであり、全校児童・生徒で合唱にも取り組んだ。児童・生徒数の増加で実施が難しくなっている。運動会は比較的過ごしやすい10月後半の時期に行っている。気温が高いことによりお弁当が傷むことを考慮し、午前中ですべての競技が終わるように運営している。学年ごとの人数も増えていることから種目数も増えてきている。まさに時間との戦い



であった。委員会活動を活発に行い、児童・生徒会を主体とした児童・生徒集会を全校朝会とは別に朝の時間に月に1度行うことで児童・生徒の活動が前面に出る動きを主として取り組んできた。

## ～ エピローグ ～

### (1) ベトナムの生活から得たもの

子どもたちは朝早くバスに乗って登校してくる。無事に到着したかどうかを玄関先で挨拶を交わしながら確認することから1日が始まる。帰りは乗車を確認し、16台のバスを全て見送ることで子供との1日の生活が終わる。そのおかげで全校児童生徒の名前と顔は全て覚えることができた。日本を離れ、異国の地で生活すること自体子どもたちにとっては大変なことであると思うが、ハノイの地でも元気に逞しく生活している姿からいつもエネルギーをもらいながら生活することができた。また、日本では経験できなかった中学部の教科担任も経験することができ、視野を広げることにつながった。

ハノイでの生活を始め1年も経つ頃には、生活していることや周りの景色に違和感を覚えなくなっていた。環境的には決してよくないハノイの地であるが、ベトナムで暮らす現地の人々の姿から学ぶことは多かった。壊れた物を直して大切に使う姿や、身近なものを再利用して使う姿、など、現代の日本人が失いかけているものをその姿から感じることもできた。同じ店がずらっと通りに並ぶなど日本では考えられないが、敵対することなく互いに協力して商売をする姿、なんてベトナムの人々は大らかなのだろうと感じてしまう。そんないろいろなベトナムの素晴らしさに魅せられながらも過ごしてきた3年間はかけがえのない生活経験となった。

### (2) 日本各地から集まった同僚たち～人々から得たもの

志の高い仲間に出会えたことも刺激的であり、今まで得たことのない財産となった。日本各地で実践をしてきた方法や教育に対する考え方を交流することは、切磋琢磨しながら様々な視点をもって学校運営にあたるという意味で大変よい機会となった。全員で動くことで学校が運営されているという雰囲気も徐々にできあがってきて、大変な面もあったが、充実した毎日を過ごすことができた。職員室内はいつも活気があり、「子供ありき」の姿勢で物事を捉え考えていく集団であった。

ベトナム人スタッフは、家族のような存在であった。休日には家に招待してくれたこともあった。苦労があってもお互いに支え合うことができる環境であったことに何よりも感謝したい。他にも商工会関係の方、大使館関係の方、JICAやJETROの方々、レジデンスのスタッフ、ドライバーなど、学校以外でもいろいろな方と接する機会があり、日本人学校がハノイに住む多くの方々に支えられ見守られていることを肌で実感することができた。

### (3) ありがとうベトナム (Xin cam on. Hen gap Lai !)

「住めば都」とはよくいったものである。いつの間にかベトナムの生活にすっかり慣れ、帰国した今でもいつかベトナムへ帰らなければと時々思うこともあるくらいである。急速な勢いで成長しているベトナム…10年後または20年後、どのような姿になっているのだろう。

今になっても学校の現状を知らせてくれる在越中の同僚やベトナム人スタッフ、遙かこの札幌まで顔を合わせに来てくれる当時の教え子や保護者の皆さん、学校を力強く支えてくださる理事会の皆さんなど、「この地ハノイの地に来てよかった。」と心から思える人に数多く出会えたことに感謝したい。ベトナムの地で学んだこと、経験したこと、得ることができたたくさんの財産は、ベトナムのよさとして日本に伝えながら、今後の教育に生かしていきたいと強く思うのである。